

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 蔵王)

事業所番号	0691600068		
法人名	株式会社つるかめ		
事業所名	グループホームつるかめ		
所在地	山形県天童市小関一丁目2-37		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 26 日	開設年月日	平成 26 年 4 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの能力を活かし日々の生活の中で役割りや楽しみを持っていただけるよう支援しております。また生活・認知機能の維持、今できていることをできるだけ続けられるように目指した取り組みをプランに取り入れ個別のリハビリに力を入れています。コロナ禍で自由になかなか面会ができないこともあり、ご家族様に毎月お客様の健康状態や生活の様子を手紙や写真を添えお伝えしております。お客様に寄り添い理解し、お客様に好感を与え安心して過ごして頂けるよう接遇に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 26 日	評価結果決定日	令和 6 年 4 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの「人生のあゆみ」を大切に捉え、これまでの暮らし方が継続できるように、また持っている「力」を発揮できるように活躍の場を提供して、役に立つ喜びと達成感を味わってもらいながら、皆で助け合い支え合って毎日を過ごしています。リハビリ体操や趣味活動、家事活動などをそれぞれの目標としてプランに組み込み、身体を使ったレクリエーションも楽しみながら体力・筋力維持に繋がっています。職員はこれからも勉強会や「社長塾」「介護道場」を通してプロ意識をもって介護の質向上に取り組み、利用者・家族等からの信頼に自信をもって応えている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念に基づき、事業所のビジョンと半期目標を設定し、職員一人ひとりがビジョンや半期目標に対して個人目標と行動計画を掲げて、半年ごとに評価を行っている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	事業所の防災訓練に地域の方から参加をいただいているが、その他の交流については新型コロナ5類移行後も実施には至らなかった。しかし広報誌やSNSを用いて情報発信することで地域との繋がりを絶えないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で定期的に活動の様子をプレゼンテーションソフトを用いて報告している。グループホームの概要と目的や、認知症の症状と支援方法等を説明し理解していただいている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催して、事業所で取り組んだことや活動の様子等を写真や動画を用いて報告している。事故報告やヒヤリハット報告については、出席者から様々な意見をいただきサービス向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて事業所の実情や取組みについて報告し理解を得るとともに、サービス向上のための指導や助言をいただいている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開催し周知徹底を図るとともに、職員同士で話し合いを行い身体拘束しない環境作りに努めている。また、玄関の施錠については、検討を重ねた結果、防犯の観点から開錠せず現状維持としている。ただし、外出したいと希望があれば、止めることなく開錠し外出に付き添うよう取り組んでいる。	毎月の職員会議で身体拘束にあたる事例がないか話し合い、身体拘束廃止・虐待防止委員会でも再度検討して確認している。また勉強会や接遇チームでも適切な介護について学びやより詳しい検討の場を設け、統一したケアで支援できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止について勉強会を行い周知徹底を図っている。また、一人の職員が同じお客様の介助に偏るのではなく、声を掛け合い交代しながら介助することで不適切な介助がないように努めている。	勉強会やチェックリストを使ってケアを振り返り、自身の行動が不適切な介護にあたらないか確認している。管理者は日頃から職員の様子に目を配り、コミュニケーションを図りながら、その日の利用者との相性なども見て対応するなど良質な介護の実践に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について事業所内で学ぶ機会を設けて、制度を理解し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時や解約時、法改正や料金改正に際しては、重要事項説明書を用いて十分な説明を行い、不明な点等がないか確認して、内容にご理解いただいた上で署名押印いただいている。また、必要時は再度契約内容を説明し承諾を得るようにしている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様との日常の会話やご家族様が来所した際に意見や要望があった際は、速やかに上長へ報告し検討した上で運営へ反映できるようにしている。	利用者との会話の中で得た要望などではできる限りケアプランや食事、活動等で応え、家族等の面会時には近況を報告して情報交換すると共にプランへの意向も聞いている。遠方の方には写真入りのメールで様子を見てもらい、笑顔あふれるSNSの動画配信も好評を得ている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、施設長会議や職員会議の際に意見や要望、提案を聞く機会を設けている。出された意見や要望については速やかに代表に伝えて運営に反映できるようにしている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の年間目標に対して職員一人ひとりが具体的な個人目標を設定し、年2回自己評価と人事考課での評価及び個人面談を実施している。また、必要時は職員面談を行い実践している。	個人目標の達成度や取り組み姿勢を人事考課で見える形で評価して給与に反映させ、資格取得でも研修費全額や公休扱い等で援助して意欲に繋げている。年2回の健康診断や面談、生活環境に配慮したシフト調整、何でも相談できる職場など働きやすい環境を整えている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修委員会が開催するオンライン研修の参加率100%を目指している。また、「社長塾」や「介護道場」が開催される時は参加を促しスキルアップに繋がるようにしている。	法人グループで年間計画したオンライン勉強会は各事業所が交替で担当し、受講後は各自感想やこれからの取り組みを書面で提出し習熟度を確認している。また更なる上を目指し職員は「社長塾」や「介護道場」に参加して知識と技術のレベルアップを図りプロ意識をもって取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナが5類に移行したが、外部研修や交流の場に参加する機会を持つことが少なかった。グループホーム連絡協議会村山地区ブロックのオンライン研修には随時参加して、情報交換を行いサービスの質の向上を目指した取り組みに繋がっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員が入居前にお客様の要望や困っていること、不安なことを聞き、そのことを職員に周知し出来る限り安心して過ごしていただけるよう、要望に沿った生活ができるよう統一した支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に要望や困っていること、不安なことを聞き、入居日までに連絡をとりながら解決できることはなるべく解決し、安心して準備ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでどのように過ごしていただくか、その時必要な支援内容を見極め目標と支援策を考え対応している。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、お客様のこれまでの生活スタイル、性格などを出来る限り把握し自立支援を中心として、他のお客様と一緒に家事活動を行ったり役割を持って共に生活しているという関係性が築けるように努めている。	「人生の歩みシート」で生活歴や習慣などこれまでの暮らし方を把握し、今まで通りの日常生活が継続できるよう支援している。旅行好きだった方には雑誌やパンフレット、農業を営んできた方にはプランターで野菜作りなどそれぞれの得意分野で活躍してもらい、思い出話をしながら共に過ごしている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメール、面会の場を活用し身体状況や生活状況の報告を行っている。通院なども出来るだけご家族様に付き添っていただき、支援の方法や内容の変更はご家族様の意見を聞きながら決定している。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や生活習慣などお客様とご家族様にお聞きし、行きつけの商店や美容室などにお連れするなど住み慣れた地域で過ごす機会を設けている。	コロナの影響で途絶えていた知人との面会も緩和され、久しぶりに訪ねてくれた際には満面の笑顔で出迎え、差し入れの好物にも喜んでいる。これからの季節、昔から何度も通った馴染みの公園に皆で花見に行くのを今から楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を把握し、席の位置に配慮したり、時には職員が間に入り孤立しないように話題の提供や楽しい雰囲気作りを行い、支え合うような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気軽に相談できるよう努めている。必要に応じてご家族様に近況を伺ったり、サービスや今後の生活についての提案を行ったり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様に寄り添い、挨拶や個別に会話をする機会を多く持ち、お客様の希望や意向を引き出し、思いに沿った支援ができるように努めている。また、自己表現が困難な方の心情を日々の行動や表情、言動から汲み取るように努め、お客様の希望や意向に添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお客様、ご家族様から生活歴等を記入していただき、入居後の生活の中で会話の中から情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、定期的にあセスメントを行い有する力等の現状把握に努めている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様、ご家族様から暮らしについて意向を確認し、他職種の意見を聞きながら介護計画を作成している。毎月カンファレンスを行い、モニタリングを経て計画の内容や見直しを行っている。	半年毎のサービス担当者会議には本人・家族等に同席してもらい（遠方の方にはメールで）、日頃の写真などを見ながら現状を伝え、意向を聞いて話し合い支援内容に理解を得ている。毎月の検討会で職員の意見を聞きながら、健康面を重視して残存能力を活かした介護計画を作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様の様子と職員の対応に分けて記録し見やすくしている。また、職員の気づきやお客様の変化などを色別にわかりやすく記入して介護計画の見直しに活かしている。	個別の経過記録は対応で良かった事を皆で共有できるように、またいつもと違う変化には赤、皮膚トラブルには青など一目で分かる工夫で情報共有している。他に業務日誌や申し送りノート、申し送り板等があり、それらを活用して統一したケアの実践とプランに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族様の状況を把握し、ご家族様に相談しながら受診や買い物、外出や面会等柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お花見や紅葉狩りなど地域資源を利用し、今まで暮らしてきた地域で日常生活を楽しむことができるように支援している。			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前と同じ医療機関を受診していただき、かかりつけの医師と普段から情報交換、連携を図っている。受診はご家族様や職員が協力して行い、その都度状況に応じた必要な支援を行うことで、適切な医療を受けられるよう支援している。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、グループホームの看護師、併設事業所の看護師と日常の健康管理、報告相談等の連携を図っている。また、必要に応じて病気やケアについての勉強会を行い、適切に受診や看護が受けられるように支援している。			
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	介護支援専門員を中心に、ご家族様、主治医、入院先との連携を行い状態把握に努めている。また、管理者や看護師も必要時に医療機関を訪問し、関係者から情報提供を受け、退院後の受け入れがスムーズにできるよう努めている。	入院となる場合は職員が付き添い医療機関に情報を提供している。入院中は病棟の看護師や相談員と連絡を取り合い家族等とも情報交換して、退院後の受け入れや他施設への移行などを検討し、本人・家族等の意向に沿った支援に取り組んでいる。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の協力を得ながら、お客様の状況に応じて重度化や終末期の支援に取り組んでいる。お客様の重度化の状況に応じてご家族様、主治医、職員で話し合い、今後の方向性を定めている。	入居時に、一定の条件を満たした場合以外は看取りを行わない事を指針を基に説明し理解を得ている。おおよそ介護認定が要介護3になった時点で特別養護老人ホームなど他施設の利用申請を促しながら利用者・家族等の意向に沿って柔軟に対応し、移行先には介護情報を提供してその後の生活に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習とAED講習を受講している。お客様の急変や事故発生に備えマニュアルを定め、勉強会を実施して実践力を身に付けている。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練と水害における避難訓練を行っている。地域の自主防災会との協定を結び、施設での避難訓練へ消防団の方や近隣住民の方にも参加していただいている。また、消防署員に講師を依頼し救命救急訓練とAED訓練を実施している。	5月に併設の小規模多機能事業所と合同で消防署員立ち合いの下消火訓練を実施し、11月には水害を想定して指定避難場所まで往復し状況を確認している。事前に昨年の課題を踏まえた訓練概要を配り訓練直後に参加者から出た意見を記録し、後に次回への課題と対策を話し合い災害に備えている。	懸案の非常持ち出し情報の軽量化について早急に対策を進めると共に、毎回の記録の管理体制も併せて講じて行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇チームを中心に勉強会等を開催し、お客様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	利用者を認知症だからと決めつけず、人格を持つ人生の先輩であることを認識し敬い、接遇チームを中心に情報を分析してその方の思いの理解に努めている。日頃から利用者の意向を大事にして行動の変化を見逃さず寄り添うことを最優先にしている。また広報紙などへの写真使用可否の確認を行い、個人情報取り扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の言葉や表情から思いを読み取り、常に自己決定できるように支援している。表現が難しい方には、選択肢をいくつか作り、自己決定できるように支援している。お客様の思いや希望を表出しやすい環境作りに努めている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	接遇チームを中心に、職員の都合を優先しない取り組みを行っている。お客様本位であることを第一に考え一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。	人生の歩みシートで得た情報から、趣味の編み物を再開したり、農作業が得意な方はプランターで野菜を育てるなど、一人ひとりが能力を發揮できるように取り組んでいる。基本的な日課はあるが、起床時間や活動参加などは利用者の気分を優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪の毛をとかしたり、髭剃りの声掛けをしたり必要な支援を行っている。季節に合った衣服や外出時の身だしなみについて、お客様やご家族様と相談し服装を整えている。訪問理容や行きつけの美容室へ出かけるなど好みのサービスが受けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の食べたいものを準備したり、差し入れの食事を提供したりすることで食の楽しみに繋げている。また、お客様一人ひとりが役割を持ち、食事の準備や片付けを分担し協力して行っている。	おかずは配食サービスを利用して、ごはんや汁物は職員が調理し、差し入れの菊ちらしや果物の皮むきなどを利用者の手伝ってもらい見事な仕事ぶりも見られている。茶碗・汁椀・箸は使い慣れた物を持参し、習慣に合わせて食器を使い分け食べやすくしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様一人ひとりに合った食事形態や量、栄養バランスの整った食事を提供している。水分はチェック表を活用し一日1200ml以上を目標とし声掛けや支援を行っている。咀嚼、嚥下などに変化がある場合は管理栄養士に相談し助言を受けている。			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後にお客様一人ひとりに応じた声掛けや介助、口腔内の観察を行っている。義歯を使用している方は夜間義歯洗浄剤で洗浄している。歯科医師や歯科衛生士と連携を図り、状態に合ったケアができるように努めている。	希望によって歯科衛生士の訪問口腔ケアや歯科往診を受診する方もおり、無料歯科検診で診察に繋がった例もある。職員は介護予防口腔ケア研修でケア方法や疾病予防に繋がる重要性などを学び、日々の口腔衛生管理に活かしている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い、お客様一人ひとりの排泄リズムを把握し自尊心を傷つけないような声掛け誘導を行っている。できる動作はなるべく自力で行っていただき、できないところを介助している。	排泄パターンを把握し羞恥心やプライバシーに配慮しながら誘導や声掛けをしてトイレでの排泄に取り組み、自立の方は様子を見て内容を確認している。夜間のみオムツの方もおり、検討会で一人ひとりに最適な誘導のタイミングや排泄用品を話し合っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取量を把握し、摂取量の少ない方にはジュース等を提供し摂取量の確保に努めている。また、便秘予防体操を行ったり、かかりつけ医に相談して下剤を処方していただき、看護師と連携して排便コントロールを行っている。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を実施している。状態に応じて入浴回数を増やしたり、機械浴を使用したりして安全に配慮した支援を行っている。時には音楽をかけた入浴剤を使用したりと楽しく入浴できる環境を作っている。また、お客様の希望する時間帯に入浴出来るように努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人ひとりの生活習慣を大切に、自由に休んでいただいている。日中適度な運動と活動を行うことで生活リズムを整え、安眠へ繋がる支援を行っている。「見守りシステム」を活用しお客様一人ひとりの睡眠状態の把握に努めている。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「服薬システム」を活用し服薬管理や服薬介助を行っている。服用している薬の種類や目的を理解するとともに、副作用等の確認も行っている。また、かかりつけ医やかかりつけ薬局の薬剤師に相談し、状況の変化や観察に努めている。	処方された薬の効能と副作用を把握して、薬の変更や体調に変化がみられる場合は申し送りノートで注意を促し、管理者や看護師への報告・連絡・相談を怠らないようにしている。また服薬管理システムを利用し、服薬履歴管理や誤薬防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様との日々の会話や生活歴、ご家族様からの情報をもとに力量に応じて役割を作り、生活に張り合いが持てるよう支援している。趣味や得意なことの継続を図るとともに、楽しみや気分転換ができるように努めている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外出の希望が多く聞かれるため、適時戸外に散歩に出かけている。また、お客様より外出の希望があった際は、ご家族様に依頼し日程調整を行い外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様が欲しい物や必要物品の購入は預り金を利用している。広告やテレビをみて「これが食べたい」と話があった場合は、お客様と一緒に買いに行ったり、外食の際に支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるよう使用していただくようにしている。携帯電話の持ち込みも制限せず使用していただいている。字の練習を取り入れ、年賀状を送ったり家族来所持に手紙を書いて渡せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の変化を感じられるように壁飾りや小物を毎月変えたり、観葉植物や花などを飾ったりしている。室温や照明にも気を配り、起床時は徐々に明るくし、消灯時は徐々に暗くし不快なく清潔感のある空間作りに努めている。	リビングでは柔らかな照明の中、華美に飾り立てず一般家庭の落ち着いた雰囲気や華道師範の利用者が活かした花などで季節感を醸し出している。利用者はリハビリや家事手伝い、ゲームや季節毎の行事などで楽しみ、にぎやかな笑い声も聞かれている。また入口には職員の名前と顔写真を貼り、利用者や来訪した方にわかりやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外に、ソファや和室などで気の合う方と一緒に過ごせる場所を準備している。窓際にセミパブリックスペースを設けて、外を眺めて過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具やテレビ、寝具を持参していただき、写真や植物なども飾れるようにしている。亡くなられたご家族の遺影や位牌を持参していただき、毎日水とご飯をあげて自宅と同じ雰囲気ですぐ居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には使い慣れた家具や道具を持参してもらい、備え付けのベッドやクローゼットも利用しながら自宅と同じように配置して違和感なく生活できるようにしている。配線コードの露出などにも気を配り動線を確保し、全室に見守りシステムや必要に応じてセンサーを設置し、安全にくつろげる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーとなっており、居室を出るとすぐリビングがあり、必ず誰かがいて安心して過ごせる造りとなっている。「できること」「わかること」を表にまとめ見える化している。お客様一人ひとりが出来る限り自立した生活が送れるように支援している。		